

平成26年度 自己評価表

学校評価委員会 開会日時 平成27年2月12日(木) 15:00～16:30 評価委員 大学教授 地元店舗オーナー 元高等学校校長 元中学校校長 元警察官 本校保護者

教育方針： 教育基本法及び学校教育法の精神に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標： ① 生きる力の育成(サンキューレターの実践、長期目標設定シートの活用、基本的生活習慣の指導の徹底、充実した学校行事、人権教育および健康・安全教育の推進、家庭との密な連携)
 ② 確かな学力の育成(分かる授業の徹底と基礎学力の定着、早めのレポート完成、コースに応じた学力の育成、学力に応じ一人ひとりを大切に指指導の徹底、授業録画ビデオによる研修)
 ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、長期目標設定シートにより将来を設計、進学・就職指導の充実、保護者と連携した進路指導、資格取得検定合格、専門学校との連携)

領域	項目	具体的取組目標	評価	目標達成状況	学校関係者評価・提言	次年度改善策
学習指導	教科指導の充実	生徒のレベルに応じた分かりやすい授業を行う。	B	実態に応じた授業を工夫試みているが、格差が大きく対応しきれないところもあり、個別指導などで対応しているところもある。	家庭教育の範囲から学校が担っている部分があり、学習させることも集中しづらい環境にある。検定取得に向けて勉強している子ども多数あり、実績もあげていることは素晴らしい。	検定取得に向けての専門学校等との連携授業を行うことで授業にメリハリをつける
		生徒の興味・関心を図りながら各授業目標を設定して、学習意欲の向上を図る。	B	受け身ではなく、能動的に参加する生徒の姿勢がみられたが、興味・関心が薄く集中力が続かない生徒も一部みられた。	視聴覚教材を使うことが苦手としているが、環境(備品等)が整っている状況で適宜行えばよいのでは。映像もよいが学校像を考えると会話の方がやりやすいのでは。	キャリアデザイン等職業意識の向上におけるプログラムを設け、在学中の基礎学力定着や検定取得の大切さ、長所の自覚と社会に適応するための努力をさせ
		視聴覚機器等を利用して効果的な学習指導に努める。	C	教科にもよるところもあり、また機器が十分揃っていないところもあり利用している人とそうでない人に大きく分かれているところがある。	放課後や土曜日にレポートを作成している様子を子どもから聞く。自習する教室開放で友人関係も円滑になっている様子。基礎学力の定着を目指しながら、高等学校の教科も進めて行くという学び直しと新たな知識修得をさせることは難しいが取り組んでいることで、小中学校時代の学力不安を軽減する3年間になっている。転校生が多いということでも未来高校ならば進路選択も広がる勉強ができるのはよいことである。	適宜視聴覚教材を用いて実社会が覗ける環境を提供する工夫をする。放送視聴等SNS関連の実用化へ向けて研究する。
		授業力アップのため、授業録画ビデオによる研究に努める。	B	新任の教員を中心に、録画ビデオを生かしてお互いに反省や研究に努め、次の授業に生かすことも出来た。		ビデオを用いた研究授業、研究協議を行い、研修、研鑽の元授業力向上を目指す。また放送視聴等に活用できるように質を高める授業を目指す。
レポート指導の充実	自学自習の習慣の育成とレポート課題の自主的な取組みの向上を図る。	A	一部根気強い指導を要する生徒もいるが、多くの生徒は自主的な取り組みが出来るようになってきている。		早期からの作成斡旋を担任を中心に進めて行く。提出期限を厳守する意識を生徒に持たせ、保護者への協力依頼も継続的に行う。	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校則や身だしなみについて、校内のあらゆる場面で指導に当たる。	C	登下校・授業時を中心に継続的に指導している。上級生は全体的に落ち着いてきているが、下級生の一部に指導に時間がかかる生徒もいる。	以前に比べ生徒は落ち着いてきている様子。挨拶やことば遣い等先生方のご指導の努力がでてきている。反抗的な態度で臨む学校生活よりもどちらかと言えば怠惰であきらめやすい子が増え、彼らに対応していく先生方のご苦労は返って増加しているのではと思う。家庭教育の大切さを改めて実感して、それが足りていない生徒への対応を学校が引き受けている現状から未来高校の存在意義は大きいと思う。	教員間で指導にばらつきがあることを無くしていき、個に合わせた指導を徹底していくための教職員間での情報共有を密にしていく。
		社会で必要なマナーやエチケットについて継続的な指導を行う。	B	登校時や職員室の出入り時の挨拶や玄関周辺(靴箱)の整頓等で全体的に良い習慣が身に付いてきている。	不登校を経験してきた生徒にとってゆっくりとマイペースで育ててくれる未来高校のやり方で多くの生徒が安心して学校生活に戻れている。	校外学習や外部講師の行う授業を年間計画に多く導入し社会性の育成に当たる。
	問題行動の未然防止	日頃から、生徒と会話したり相談にのるなど信頼関係づくりに努める。	A	日頃から生徒の動向に気を配ったり、生徒が話し易い環境作りに取り組んでいる。		日頃からの会話、個別懇談、三者懇談を密に行い、来校による面談、家庭訪問による面談等、家庭と連携して子育てしていく姿勢で臨む。
		学校生活全般について、保護者との密接な連携の取れた指導を行う。	C	気になる様子があれば、家庭と密に連絡を取るよう心掛けており、また学校通信などで学校での活動の様子を知らせている。		様々な家庭環境や学力差等の対応法を検討する教職員の研修を増やし、多様化する入学者層の生徒に社会の中で適応していける準備期間のありかたを模索する。
進路指導	進路指導の充実	進路指導計画に従って、進路情報の提供等により3年間を見通した進路指導を行う。	B	転入生も多く、計画的な進路指導が出来にくいところもあるが、将来を見据えた高校生活を送れるよう取り組んでいる。	1年生の時から進路の話をして下さり意識する所から熱心に指導して下さっている。河原学園の関係で身近に専門学校への体験入学等の見学ができ、身近に進路に就いて考えられる環境があるのはありがたい。	進路指導計画を充実することで、より卒業後の意識を持った学校生活を送れるよう3年間を見通した進路指導を行う。
		高専連携によるキャリア教育を推進して職業意識の向上を図る。	B	計画的に専門学校等の先生を講師に招いての出前授業の実施により職業意識の改革・向上が図られている。	不登校を経験してきた生徒が多いため互いに社会に適応する不安要素似ている先輩が卒業までに進路を確定していることで安心感が持てる。	在学中に専門学校の協力の元キャリア教育を行い、職業意識を持たせ、そのために何をすべきか目標設定を個々行う。
		進路選択に当たって3者面談等で保護者との連携を図る。	B	3年生は、生徒の適正や興味と保護者の気持ちを考慮しながら進路について真剣に取り組む姿勢がみられた。	コース毎に専門的な授業が行われているので、進むべき道への自覚が芽生えている様子がうかがわれる。	進路選択においては、最低でも毎学期三者懇談で保護者と連携を図る。
		コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。	B	学年が進むにつれ、専門分野の学力の向上や模試・検定・資格試験への意欲的な取り組みがみられた。	高卒資格を取得することが目的で入学している生徒も先生方が誘導してくれるので進路まで決めるんだという意識をもてる。	コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。
特別活動	学校行事の充実	運動会、スキー等の行事を充実させる。	A	運動が苦手な生徒もいるが、殆どの生徒は準備・後かたづけも含めて協力して意欲的に活動できていた。	運動が苦手な生徒も多い中、運動をさせる体育の授業をやり続けており、少しずつ体を動かすことも好きな生徒が増えている。学園行事や学校行事の参加率がよく、日頃からイベントを楽しむ生徒が増えてきている。	学校行事をより充実させる(既存の行事の修正改善と新行事等の盛り込み)
	「感謝の心」を育む	サンキューレターによって、生徒の人間性の成長を図る。	B	学校全体が、共通理解のもと、長期目標設定シートの作成を助めているが、十分に活用できていない生徒もいる。	校内の机上の勉強も大切だが、外に出して経験させるのはよいことだと思う。	サンキューレター、原田式等を活用し、生徒一人ひとりの人間性の成長を図る。